親字	音訓	甲骨	文・金文・ 5周・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆		:書 漢・後漢)	草書	行書	楷 (南北朝		正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
夢 教5常①	ム ゆめ くらい	7	が出	子弾庫差帛	おかい。	事馬王维		ビアは	異福寺断碑	参	芸が	夢	夢
梦		178	為	J 34/45/E113	廖	まま 黒王堆		1 641	光 第 集字聖教序	Juntasau	接通過	形	1.400073
夢		EE F	並又		武人家人	My X. Ht.			来于室秋厅		地區公司	当り	
大教1常①	タイ ダイ おお おおいに おおきい	↑ □ □	金文	大	泰山刻石	大 居延漢簡	大	大 大観帖	大	大	大	大	人
			大五鼎	人包山楚簡	大説文篆文								大
			大石鼓文		介 _{説文籍文}								
太 教2常①	タイ タイ ふとい ふとる はなはだ				記文篆文	武威漢簡	以 陽三老石堂	大	太 遊 地	大孫秋生造像	人	大	大、 王勃詩序
泰黨	タイ おごる やすい			从	育 _{説文古文}	泰馬王维	蒼頡廟碑側	京 淳化閥帖	泰	表 敬史君碑	表 ^{九成宮}	赤	恭
						乘馬王维	禮器碑陰			煮 元熙墓誌		泰	
						恭馬王维	赤。武威漢簡						
天	テン あま あめ	₹ 甲骨	股·金文	天 睡虎地秦簡	泰山刻石	天馬王堆	夫長後碑	え +this	天興福寺断碑	天 高貞碑	人 九成宮	天	チ
		大甲骨	大	茅 店楚簡	 	美		大観帖	夫				AN E動詩序
		大	 全文	大郭店楚簡		居 居 延 漢簡		Z Eritz					人 風信帖
		大介甲	戦国·金文	元 上海楚竹書		教煌漢簡		复 智永千字文					る

【夢】干禄字書の〈俗〉と〈正〉は字体の違いというよりも、 どちらにするか迷う。 筆遣いと筆順の違いだけのように見える。康熙字典では「夢」 【大】泰山刻石の字体は説文篆文と異なり、説文籍文に近い。 と「梦」は俗字として別の部首に出ている。「梦」の使用例 泰山刻石が小篆とすれば説文篆文は大篆か。 は少ないが、漱石は一貫して「梦」を書いている。現代中国 【太】元は「太」は「泰」の古文だという。 は「梦」を採用している。集字聖教序の字体は行書と草書の 【天】泰山刻石と説文篆文の字体が異なる。

										U	子体发遷	字典』大	熊肇糾作
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 _{大正8年}	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
夢	多篇	夢	夢	ち	亭 明治の漢字		夢	夢	夢	夢	夢	芸 干禄〈俗〉	梦
姜 粘葉本朗詠		梦											
を を を を を を を を を を を を を の に に に る に る に に に に に に に に に に に に に													
大 粘業本朗詠	大	大	大	ナ			大	大	大	大	大		大 現代中国
									,	,			
太	た。農家用文章大全	太 泰 泰	太	な				太			太		太明代中国
表 粘葉本朗詠	恭	泰	泰				泰	泰		泰		赤田線像	泰 現代中国
粘葉本朗詠 すし 粘葉本朗詠		<u>太</u>											
大		天	天				天	天	天	天	天		天
人 粘業本朗詠	女大学			天									
2 粘葉本朗詠													
日本紀竞和歌													